

愛知県新体育館 <全体概要>

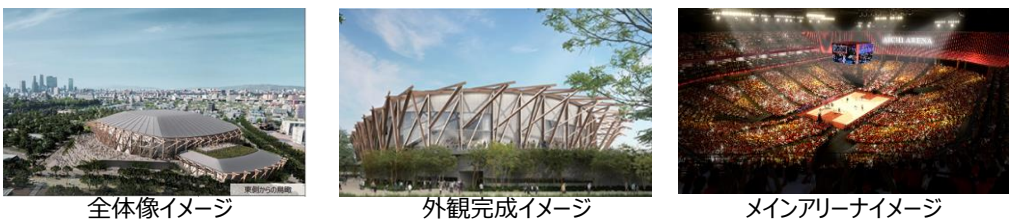
プロジェクトのポイント

- 多様なサービス提供と高い収益が期待される施設として、**アリーナでは初のBTコンセッション**を採用し、**民間活力を最大限に活用**し、高いホスピタリティサービスを実現。
- NTTドコモの有する5G技術など、スマートアリーナとしての**最先端技術を実装した世界水準のアリーナ**を整備。多種目のスポーツの他、イベント等にも**柔軟に活用可能な施設**変機能を確保し、**利便性の高い施設を実現**。
- 国賓レベルの利用者等VVIPへの対応も可能な**VIPルーム**により上質な観戦体験を提供。

施設概要

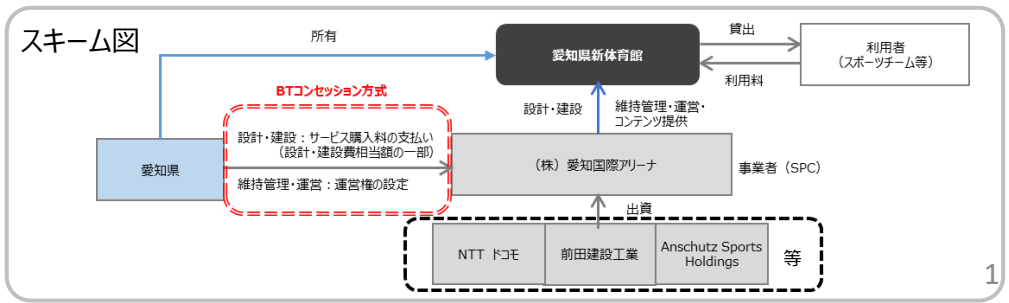
所在地／アクセス	名古屋市北区名城一丁目地内（名城公園北園の一部） 市営名城線・名城公園駅2番出口から徒歩1分		
面積	敷地	約4.6ha	延床 61,700㎡
構造	鉄筋コンクリート造、鉄骨造、5階建		
観客席	17,000席（メインアリーナ・立見含む）		
付帯施設	VIPルーム	有り	
	飲食・物販	有り	
	その他	医務室、メディア室、多目的室、駐車場、EV等	
ホームチーム	未定		
スポーツ興行	<ul style="list-style-type: none"> 大相撲名古屋場所 スポーツの国際大会等 全国レベルのコンサート、イベント、コンベンション等 		
防災機能	帰宅困難者の一時避難所としての機能を予定		

施設写真



事業概要

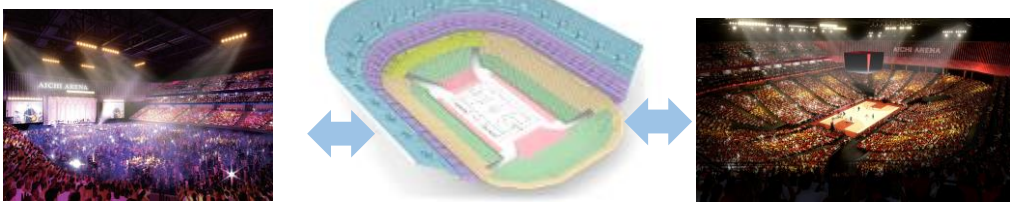
事業スキーム	設計・建設は、事業者が自らの提案をもとに行った後、県に所有権を移転する方式（BT方式）により実施。管理・運営は、公共施設等運営権（コンセッション）方式により実施。		
事業主体	愛知県		
所有者	土地：国（公園管理者：名古屋市）	建物：愛知県	
整備方法	㈱愛知国際アリーナによる整備		
資金調達	愛知県からのサービス購入料の支払い、構成企業からの出資等		
管理・運営方法	コンセッション方式により、㈱愛知国際アリーナが運営		
事業期間	整備	2021年6月～2025年3月（工期）約3年10ヶ月（予定）	
	運営	2025年4月～2025年3月（予定）	
事業収支（百万円）	整備費	40,000	管理運営費 非公開
	利用料収入	非公開	総収入 非公開
行政の役割・支援	整備費の負担、関係機関との連携等		



【参考ポイント①】多様な利用方法や用途の実装

- メインアリーナは**ハイブリッドオーバル型**（オーバル型 + 馬蹄型）の観客席とし、各種スポーツから音楽イベントまで、幅広い利用目的に対応。
- 床や搬入口の構造等に関し、イベント時の準備や機材の撤去、**機能転換を容易にする設計**を実施。
- 県民のスポーツ活動、文化活動の拠点として**サブアリーナ、多目的ホール**を整備。メインアリーナとの一体利用にも対応した動線を整備。

<機能転換イメージ>



【参考ポイント②】運営・管理に係る検討

- 5G技術**の導入によりVR・AR等を用いた非日常的な観戦体験を提供。
- スマートフォンアプリの活用を前提とし、会員登録を行うことにより個人IDを発行し、**パーソナライズされた各種サービス**を実施。
- アリーナ体験価値と利便性を向上させるよう、**入場前から退場後までをICTによりサポート**。

<VR・ARを用いた観戦体験>



<電子チケットでの入場>



【参考ポイント③】顧客経験価値の向上

- 3階VIPルームは**国賓レベルの利用者等VVIPへの対応**も可能なサービスと観戦体験を提供。
- ステージ正面の視界の良い2階エリアに一般席よりも上質なプレミアムシート・プレミアムラウンジ・プレミアムルームを設置。

<VIPルームのイメージ>



※あくまでイメージであり、実際の構造・内装・デザインは異なる可能性があります

【参考ポイント④】民間活力を活用した手法の採用

- アリーナでは初のBTコンセッション方式を導入**。
- 「設計・建設費と維持管理・運営費」から、「利用料金収入等を差し引いた額」をサービス購入料とすることにより、**県負担額約200億円で設計・建設費400億円相当のアリーナ整備に成功**。
- 事業者の創意工夫によって生じる収入増、支出減を事業者に帰属させることで、**事業者の自由な投資活動**を可能とした。
- コンセッションに対する実績や経験を持つ代表企業その他、アリーナ運営企業、移動通信企業、放送メディア企業等の**多様な構成により、収益性の高いアリーナビジネスを検討**。

<事業スキームとリスク分担>

